

「学生」×「地域」カフェ

「第6回『匠の里 伊勢型紙フェスタ』を活用した地域づくり」との連携について

三重県戦略企画部企画課

1 「匠の里 伊勢型紙フェスタ」について

「匠の里 伊勢型紙フェスタ」は、平成20年からスタートしたイベントで、伊勢型紙産地協議会や白子まちかど博物館などで構成する実行委員会で企画・運営しており、鈴鹿市の伝統工芸品産業である伊勢型紙の振興のため、伊勢型紙とその産業を育んだ白子・寺家地区の歴史に触れていただける機会を提供し、一人でも多くの方に伊勢型紙やこの地域を知っていただくことを目的として、開催しています。

学生にとっては、この取組を通じて地域のことを学びきっかけとするとともに、地域の伝統産業を次代へ保存するために活動される皆さんとの交流を通じて、伝統産業の保存や地域資源の活用等について考える機会となることを目的としました。

2 取組概要

第6回「匠の里 伊勢型紙フェスタ」を、平成25年11月9日（土）10日（日）に開催し、鈴鹿市内の高等教育機関（鈴鹿国際大学、鈴鹿工業高等専門学校）の学生延べ26名が参加しました。両日併せて約1,000人の来場がありました。

本年度は、学生がイベントの企画段階から参画し、子ども向けイベントの企画・アイデア出し、当日の準備及び運営を行いました。

その他、イベント当日には、地元の白子高等学校の生活創造科の生徒、教員延べ10名にも協力いただきました。

企画運営にあたっては、鈴鹿地域総合防災事務所とともにサポートしました。



(1) イベント企画検討会について

イベント当日の子ども向けイベントについて、学生主体で企画・運営を行うため、鈴鹿国際大学国際人間学部の榎教授にもご協力いただき、同大学の学生が企画検討会を開催し、具体的なアイデア出しを行いました。

検討した結果、伊勢型紙デザインのジクソーパズルと折り紙体験を実施することに決定し、試作も行いました。また、地域の皆さんとの交流を図るため、伊勢型紙のデザインのスタッフTシャツづくりを行いました。(パズルは5種類)



(2) 事前オリエンテーションについて

イベント当日のボランティア参加にあたり、学生の皆さんに協力いただく内容と、「匠の里 伊勢型紙フェスタ」の目的及び学生の皆さんに期待することを説明するため、鈴鹿工業高等専門学校において、オリエンテーションを実施し、それぞれの役割分担を決定しました。

(3) イベント開催当日の協力について

イベント当日は、参加学生の皆さんに、子ども向けイベント(伊勢型紙デザインパズルと和柄折り紙体験)の運営、白子駅・鼓ヶ浦駅での来場者へのご案内、お茶席手伝い、来場者の受付などの役割を担っていただきました。また、和装での街歩きによるPRをしていただきました。

具体的には、以下のとおりです。

白子駅、鼓ヶ浦駅でのPR

イベントのメイン企画である型紙職人の作業場の見学や鈴鹿墨等の作業を見学できるウォークラリー用のマップを駅構内で配布しました。



来場者受付

メイン会場である伝統産業会館ではウォークラリーマップの押印、来場者帳への記名依頼、参加記念品およびウォークラリー完歩賞の引き渡しを補助しました。



お茶席の補助

伊勢型紙のデザインを取り入れた創作和菓子を振舞うお茶席のチケット販売等の補助を行いました。



産品販売の補助

白子・寺家地区周辺の名産品等の販売を補助しました。



和装での街歩き

ウォークラリーマップのチェックポイントの案内と当日開催されたフォトコンテストの被写体を兼ねて、着物を装って街歩きを行いました。



子供向けイベント

学生が自ら企画した「伊勢型紙デザインのパズル」、「和柄折り紙体験」の運営を行いました。



3 地域と参加学生からの感想

(1) 地域（主催者）からの感想

- ・伊勢型紙産地協議会のメンバーは高齢化しており、自分達だけでイベントを実施することは困難です。地域の方や学生さんに手伝ってもらえて助かりました。
- ・今後とも継続していくためには、イベント時だけでなく、日頃から地域と学生が関わりをもてる機会を持つことが大切です。

(2) 参加学生からの感想

- ・企画段階から関わることでモチベーションが高まったし、当日も積極的に関わることができました。
- ・イベントは、期待どおり楽しめました。
- ・着物を着ることもできたし、地域の伝統文化を知るいい機会になりました。